

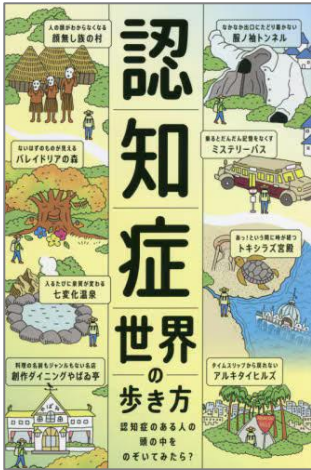
職員オススメ本 12月



「世界の美しい図書館」 パイインターナショナル

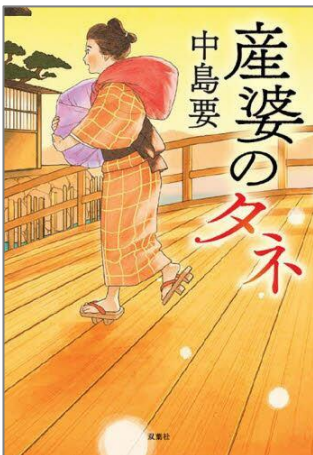
最近図書館を核とした複合施設が各地に誕生しています。図書館にはたくさん本があることはもちろん、本だけではないワクワクがいっぱいの空間や建物もその魅力の一つです。歴史的建造物や世界遺産に登録された建物、本当にここが図書館なの!?と驚くような空間まで、世界各国の美しい図書館が紹介されています。

美幌町にもこんな図書館があると良いですね。



「認知症世界の歩き方」 寛 祐介／著 ライツ社

どうしてそんなことをするのか？行動の背景にある理由がわかれば、対応の仕方も変わり、ご本人も周りの方も楽になる場面が増えていくことでしょう。今まであまりなかった、肝心の「ご本人」の視点から、その気持ちや困りごとがまとめられた、身近に感じ楽しみながら学べる「旅行記」形式の本。



「産婆のタネ」 中島 要／著 双葉社

浅草天王町の札差、坂田屋の娘十六歳のお亀久は、幼きころはお転婆娘であったが、六年前にかどわかきに遭い、知らない男と血を恐れ、家から出られなくなった。さらに、許婚の紀一郎が紀州で山崩れに巻き込まれ、いまだ行方がわからず、塞ぎ込む日々が続いていた。六年ぶりに家に抜け出したお亀久は身投げを決意するが、紀一郎の弟、紀次に助けられる。お亀久の母は、命がけで赤ん坊を産む母親の姿を見せて命の大切さをお亀久に伝えるために、嫌がるお亀久を連れて産婆のタネのところへ訪ねるのであった。

お産婆見習いをはじめるお亀久の成長時代小説です。